

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年12月16日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから12月16日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

まず、12月20日の（3）ですけれども、第1104回審査会合と、実用炉の配置措置の審査会合の合同会合です。

これは合同会合になっていますけれども、柏崎刈羽と福島第二、両方東京電力から同内容の申請があったということで合同開催にしています。中身は、個人線量計の導入ということです。保安規定と廃止措置計画が変更されます。

次が、12月20日の（4）1Fの事故分析検討会です。

議題は4つです。

1つは、1号機の格納容器の内部調査、いわゆるペDESTALの鉄筋の件ですけれども、12月9日からもう一度調査が始まっていますけれども、東電からその旨の報告があります。

2つ目は、3号機の水素濃度の評価ということで、これも東京電力から水素がどのように漏えいして、どれぐらいたまったかといった評価結果の報告があります。

3つ目が、スミア試料分析の状況についてということで、これはJAEAから説明があります。

4つ目は、今年度の中間取りまとめの案ということで、前回12月5日は目次が出ましたけれども、今回、取りまとめ案の全文が出てくることになります。

次が、3ページ目、12月20日の（6）核燃料施設等のほうの審査会合です。

議題は1つで、日本原燃再処理施設の設工認です。これはまもなく2回目の申請が出てくるということになっていまして、その準備状況の報告ということになります。

次が、12月21日の（7）1Fの審査会合です。

議題は、引き続きALPS処理水の海洋放出についてということです。年内はあと一回、再来週にもう一度やるようで、そこでこの件の審査を終える見込みとなっています。

次が、12月22日の（9）核燃料施設等の審査会合です。

議題は1つで、日本原電の東海低レベル廃棄物埋設事業所のいわゆるトレンチ処分と言

っているものです。10月、11月に引き続いて同じ議題でということになりまして、今回は線量評価のシナリオの説明などがあります。

次が、12月22日の（10）環境放射線モニタリング技術検討チームです。

これはモニタリングの測定手法、全部で36冊あるようではありますが、その改訂を年1種類ずつ計画的に行っています。

議題は3つで、1つ目と2つ目は、その36種類のうちの放射性ヨウ素とトリチウムの測定分析法の改訂ということです。

3つ目は、来年度以降どういった優先順位で36冊の改訂を行っていくかといった議論を行うこととなります。

次が、4ページ、12月23日の（11）第1105回審査会合です。

議題は3つで、1つ目が志賀の敷地周辺の地質構造についてということで、引き続き断層0の活動性の評価方針についてということです。前回11月11日のコメントの回答などです。

2つ目は、浜岡の敷地の地質構造についてということで、前回9月30日に続きまして断層の活動時期の議論となります。

3つ目は、泊の地震動評価についてということで、前回10月21日コメント回答などがあります。

最後に、3の委員の現地視察のところですが、12月22日、23日に委員長と杉山委員が1Fを現地調査します。委員長は23日のみになっています。

発表のとおり、22日は事故調査関係で2号機と5号機の原子炉建屋を見ます。23日はALPSの関係施設を見るということになっています。発表のとおり現地での取材が可能になっています。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。